

経営比較分析表（令和5年度決算）

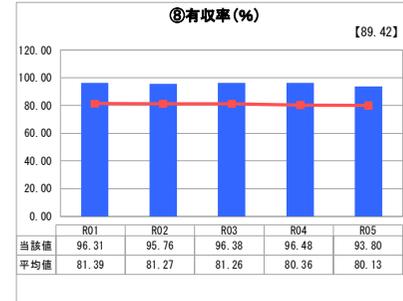
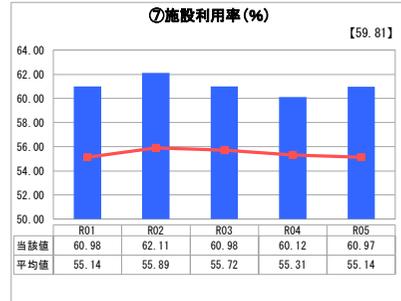
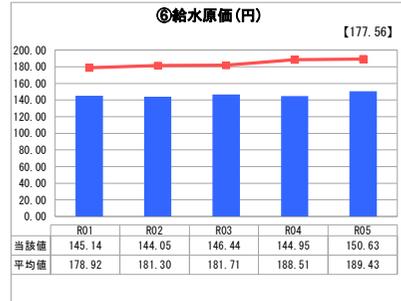
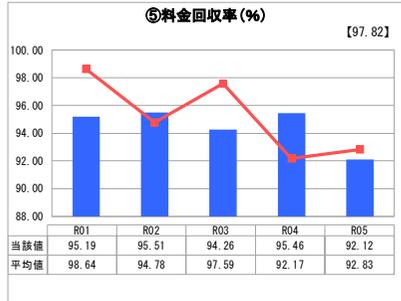
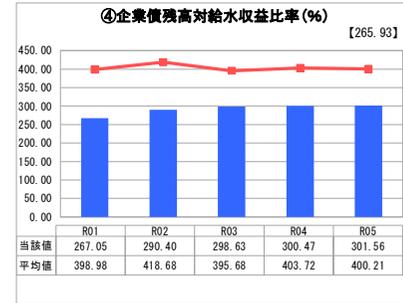
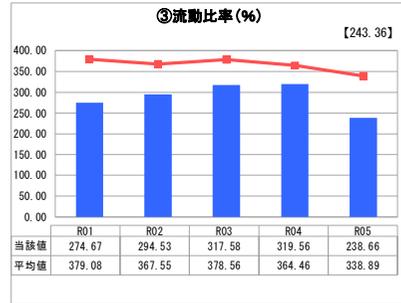
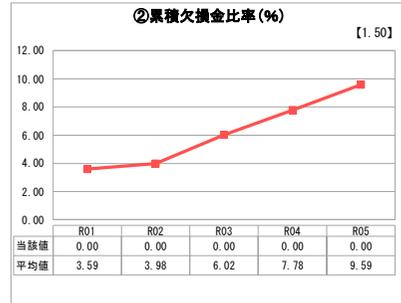
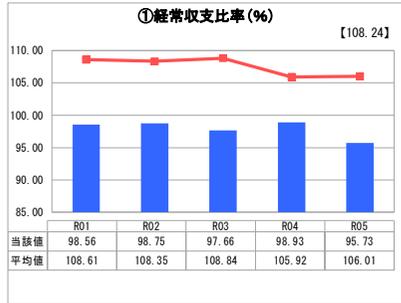
埼玉県 川島町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	71.44	99.94	1,966	

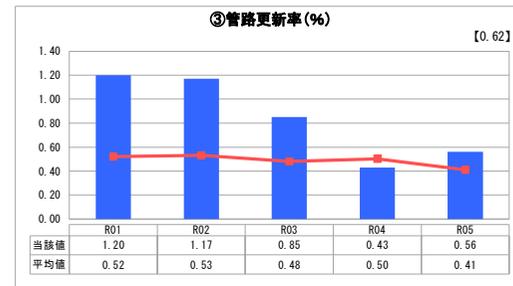
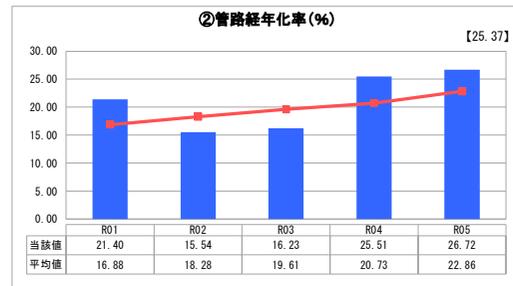
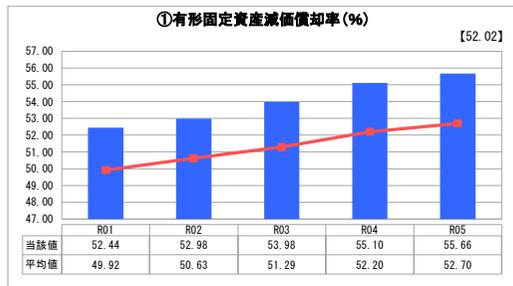
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,874	41.63	453.37
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
18,773	41.63	450.95

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、平成29年度から具水の受水量を削減し、自己水を増量するなど支出を減らしていますが、水道ビジョンによる老朽化施設及び配水管耐震化事業により減価償却費が増加し、100%を下回っています。
 ②累積欠損比率は、0が続いていますが今後施設の老朽化による更新投資が必要となることも想定されることから継続して費用の削減を努める必要があります。
 ③流動比率は増加傾向にあったが、令和5年度は企業債借入額が減少したため減少しています。
 ④企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均に比べると低い状況です。今後も配水管耐震事業の財源として企業債の借入を行うため増加すると思われる。
 ⑤料金回収率は、100%を下回る傾向にあるため、今後想定される施設の維持や修繕等の費用を見込んだ適正な供給単価について検討していきます。
 ⑥給水原価は、類似団体平均より低い状況です。この状況を保つため、引き続きコスト削減を進めていきます。
 ⑦施設利用率は、類似団体平均より高いが、今後の給水人口の減少等を踏まえ、施設や管路のダウンサイジングを検討していきます。
 ⑧有収率は、類似団体平均より高い状態にあります。今後も高い有収率を維持できるように漏水修繕を行っていきます。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、上昇傾向にあり、施設の老朽化が進行しています。計画的に償却対象資産の更新を行います。
 ②管路経年率は、大規模な宅地開発等で布設した配水管が法定耐用年数を超えたため、高い状況です。計画的に管路の更新を行っていきます。
 ③管路更新率は配水管耐震化事業に管路を更新しています。物価高騰等により工事費が増加し、更新距離が減少したため管路更新率が低くなっています。今後も計画的に管路の更新を行っていきます。

全体総括

経営面では、企業債借入について、償還金残高や利息水準などが適切になるよう検討します。また、漏水など水の無駄が生じないよう取り組みます。
 浄水場施設や配水管では、配水管耐震化事業のほか、アセットマネジメント結果などに基づき老朽化施設の更新を進めます。また、水の使用量低下について、将来の水需要に合わせた老朽化施設のダウンサイジングを検討します。
 町では、水道事業ビジョンや経営戦略などに基づき、水道事業経営について検討を重ねています。これからも、みなさまが安心して水道をご利用できるように水道事業経営に努力します。

経営比較分析表（令和5年度決算）

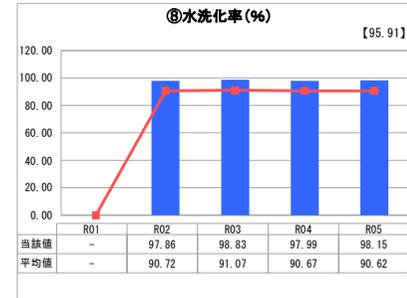
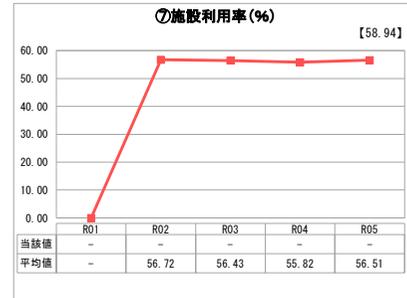
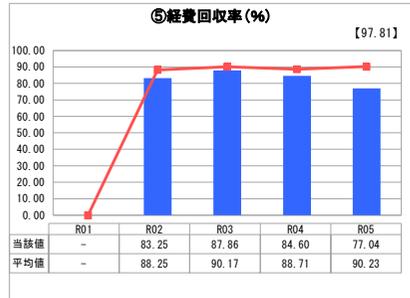
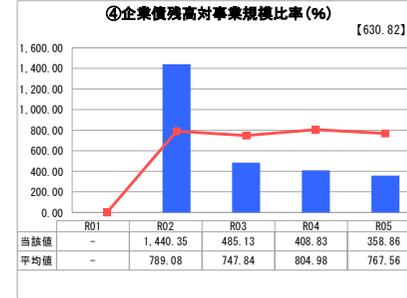
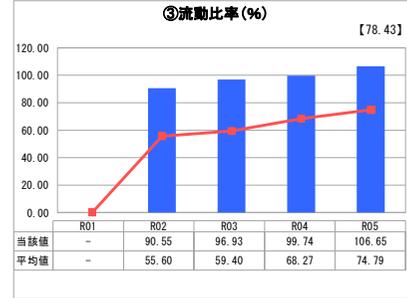
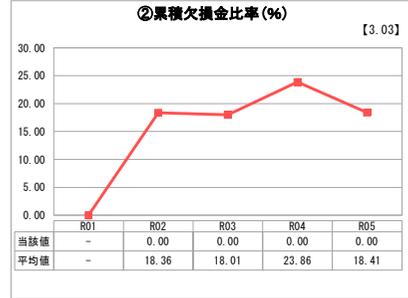
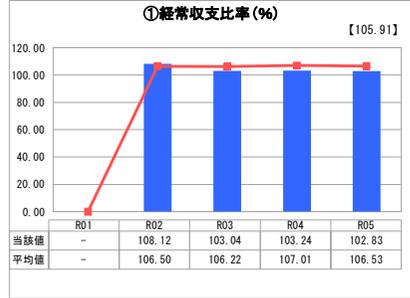
埼玉県 川島町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	76.24	51.77	89.42	1,540

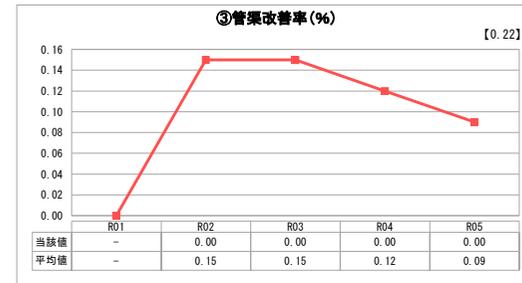
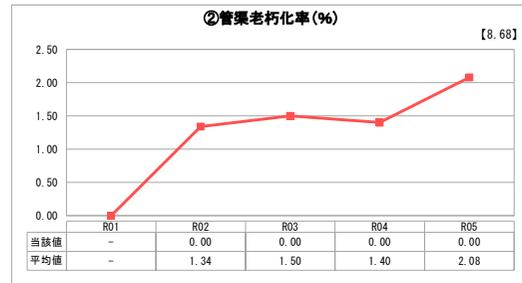
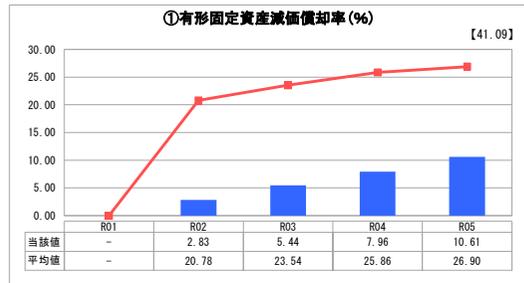
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,874	41.63	453.37
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
9,724	3.25	2,992.00

グラフ凡例	
■	当該団体の値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率について、100%を上回っていますが、全国平均、類似団体平均の双方を下回っています。経費回収率においては100%以下であり、下水道使用料だけでは汚水処理にかかる費用を賄いきれず、一般会計繰入金等の投入により収支のバランスを維持している状態です。

流動比率については、令和4年度まで100%に届きませんでしたでしたが、令和5年度では100%を上回りました。しかし、年度末における現金預金の残高だけを見ると、令和3年度以降徐々に減少しています。

企業債残高対事業規模比率について、全国平均、類似団体平均の双方を下回っていますが、有形固定資産減価償却率も同様の傾向です。これは、施設取得の財源に借入した企業債の償還が完了し、かつ減価償却は未完了という時期に該当しているためと思われます。今後、減価償却完了の後は管路施設の老朽化に伴う更新費用が発生し、再び企業債を借入し工事費に充てることになると推察されます。

汚水処理原価について、全国平均、類似団体平均の双方を下回っていますが、徐々に上昇しています。管路施設の維持管理等に、次第にコストがかり始めているためと考えられます。

水洗化率について、年度ごとに値は増えていますが、まだ目標とする100%には達していません。今後も引き続き未接続の世帯へ指導を行い、水洗化率の更なる向上を図っていきます。

2. 老朽化の状況について

令和5年度末時点において、法定耐用年数を経過した管路施設はありません。しかし今後は、法定耐用年数を経過する施設が順次発生します。

現在、ストックマネジメント計画に基づく管路施設の点検調査を実施しており、老朽化の進行状況や劣化の有無を確認しています。その結果、修繕を要する箇所があった場合は、緊急度の高い箇所から修繕を実施していきます。

また、広範囲にわたり老朽化が進行している管路施設が確認された場合は、計画的に更新工事を行い、費用の平準化に努め、下水道事業経営に過大な影響が及ぶことのないように努めます。

全体総括

令和5・6年度に川島町上下水道事業審議会を開催しました。令和5年度に川島町下水道事業経営戦略改定について審議を行い、令和15年度までの投資・財政計画により財政状況悪化の進行状況を確認し、「経費回収率100%」「下水道使用料1年分を超える内部留保資金の確保」を経営目標として決めました。令和6年度には、下水道使用料の改定について答申を行いました。

下水道管路施設の長期使用に伴い、維持管理費や老朽化把握のための調査費用の増加、将来発生すると予測される老朽化した管路の更新工事などに備え、支出における経費削減策と、収入において適切な下水道使用料の検討を定期的に行い、持続可能で安定した事業の経営を行ってまいります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。